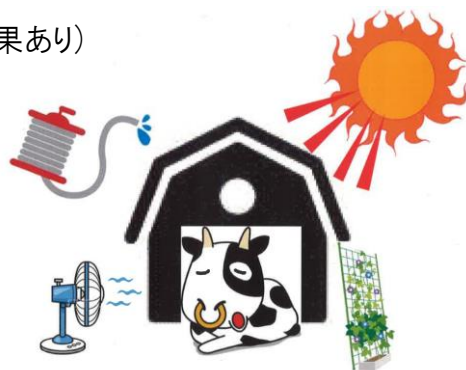


今年も暑くなる?? 早めの暑熱対策で事故防止!

「異常気象」続きの昨今、今のところ3か月予報では猛暑は予想されていませんが、それでも暑い季節がやってきます。暑熱対策を再確認、事故防止につとめましょう。

畜舎への対策

- ① ファンなどで牛体に直接風をあてる(1.5m/秒以上の風速で効果あり)
畜舎内を整理・清掃し風通しを良くする
- ② すだれ、寒冷紗で直射日光を遮り温度の上昇を抑える
緑のカーテンは空気の冷却効果があります
- ③ 屋根へ消石灰や断熱塗料等の塗布、屋根への散水を行う



牛への対策

- ① 嗜好性・消化性の高い粗飼料を給与し、食欲と栄養を確保
- ② ミネラル、ビタミンを増給(通常の1.5倍)
- ③ ルーメンアシドーシス予防に重曹・生菌剤の給与
※ルーメンアシドーシス(SARA):濃厚飼料の相対的な増加等により第一胃(ルーメン)内の異常発酵でpHが断続的に低下し様々な障害が発生します
※重曹は嗜好性が悪いため、重曹:塩(1:1)の混合物を給餌時100g/回程度で効果あり(H28県畜試データ)
- ④ 給水器のこまめな清掃で、新鮮・清潔な水の給与

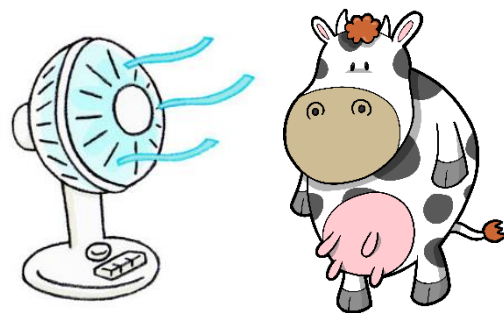
酪農家の皆さんへ

夏場の“大腸菌性乳房炎”に要注意!

高温多湿のこの時期、大腸菌性乳房炎がグッと増えます。特に周産期で体力が低下した牛は要注意です。観察をしっかりと、早めの予防策をとりましょう!!

<大腸菌性乳房炎の予防>

- ・搾乳前後のディッピング等で乳頭を殺菌
- ・搾乳時の前搾りを徹底し乳汁の異常の有無を観察
※ブツがある水様性乳汁は要注意
- ・牛床の消毒・乾燥、新鮮な敷料を用い適宜交換
※特にオガクズに注意、消石灰を5%程度添加
- ・乾乳期の飼養管理で分娩前の疾病(低Ca等)を予防



★バルク乳体細胞数が気になり始めたら、家保にご相談ください。

肉牛農家の皆さんへ ヒートストレスによるビタミン欠乏に要注意! ～ビタミン給与レベルをチェックしましょう～

- ・肥育用飼料はビタミンA(VA)含量が低いため、肥育牛の血中VA濃度も低くなりがちです。特に、夏はヒートストレスで採食量が減少し、さらに血中VA濃度が下がり、秋口にズルやしこりの増加や死亡事故を起こすケースもあります。
- ・ビタミンE(VE)は抗酸化作用があり免疫機能にも関与していますが、ヒートストレスなど採食量が落ちるとVEが不足して肝機能が弱り病気になるたり、繁殖機能にも影響します。

★ビタミン検査はいつでもお受けしていますので、家保にご相談ください。